



ハトダヨ
2018年
4月号

函館市中央図書館

編集・発行 函館市中央図書館 指定管理者 TRC 函館グループ

〒040-0001 北海道函館市五稜郭町 26 番 1 号

TEL (0138) 35-5500 FAX (0138) 35-5525



市中央図書館だより

第24号 平成30年4月1日 発行

予約ランキング

図書館でたくさん予約が入っている本は何か、みなさんにご存知でしょうか。ランキングを参考に読みたい本を探すのも一つの方法です。ご予約は図書館の窓口、またはインターネットからどうぞ。

＼平成30年3月1日現在、予約回数の多かった本をご案内しています／

1	マスカレード・ナイト	東野 圭吾／著	11	ホワイトラビット	伊坂 幸太郎／著
2	この世の春 下	宮部 みゆき／著	12	榊月	今野 敏／著
3	この世の春 上	宮部 みゆき／著	13	屍人荘の殺人	今村 昌弘／著
4	盤上の向日葵	柚月 裕子／著	14	騙し絵の牙	塩田 武士／著
5	おらおらでひとりいぐも	若竹 千佐子／著	15	銀河鉄道の父	門井 慶喜／著
6	砂上	桜木 紫乃／著	16	恨み残さじ	佐伯 泰英／著
7	九十歳。何がめでたい	佐藤 愛子／著	17	院長選挙	久坂部 羊／著
8	キラキラ共和国	小川 糸／著	18	わたしを離さないで (文庫)	カズオ・イシグロ／著
9	ノーマンズランド	誉田 哲也／著	19	道標	今野 敏／[著]
10	おもかげ	浅田 次郎／著	20	わたしを離さないで	カズオ・イシグロ／著

お知らせ



美原図書室は、3月で閉館いたしました。これまでのご愛顧誠にありがとうございました。なお、美原図書室で予約された資料の受取場所は、ご指定がなかったものにつきましては全て中央図書館とさせていただきます。ご利用をお待ちしております。お問い合わせなどありましたら、中央図書館（35-5500）までお願いいたします。

開架展示「今さら聞けないアレとコレ」

期間：4月1日（日）～4月26日（木）

聞かれてもうまく答えられない常識やマナー。耳にしたことはあるけれどよくわからない単語や意味。そんな皆さまの「今さら聞けない」モヤモヤをすっきり解決いたします。

開架展示紹介



ミニ展示「パソコン・スマートフォンに強くなろう！」

期間：4月1日（日）～4月26日（木）

日々活用する機会の多くなっているパソコン・スマホ。基礎知識はもちろん、一歩踏み込んだ知っておくと便利な関連本を幅広く紹介いたします。

ハトダヨにしか
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

スタッフのおすすめ本

タイトル:「Ank:a mirroring ape」

棚: A25~A30
請求記号: F ㍲

著者: 佐藤 究 出版社: 講談社 (2017年8月)

2026年に起きた京都暴動。テロでもなくウィルスでもなく、多数の死者が出たのはなぜか?この災厄の原因は何なのか? パニック SF 小説?と、悔るなかれ。人類とは何なのか、何処から来たのか何処へ行くのか…人類最大の謎への旅に読者を誘います。

さて、この本のタイトルの読みは、「アंक ア ミラーリング エイプ」。どういう意味?と疑問の方にヒントを。京都暴動の鍵を握るのはアंकという名の一頭のチンパンジー。では、ミラーリング エイプとは?これこそ謎の旅への案内人、謎の答えを導き出し、この小説の鍵となる者です。

タイトル:「空色の小鳥」

棚: A25~A30
請求記号: F 材

著者: 大崎 梢 出版社: 祥伝社 (2015年9月)

敏也は血の繋がらない亡き兄の娘・結希を見つける。母と娘はひっそりと暮らしていた。しばらくして病気だった母を看取り、幼い結希を引き取った敏也は慣れない子育てに四苦八苦。近所の人や友人たちの力を借り、「親子」は毎日を過ごしていた。しかし彼の心中にはある打算があって…。大企業の総帥であり亡き兄を溺愛していた義父、それを取り巻く欲深い親族に翻弄される敏也と結希の行く末とは。そして明らかになる真実。血縁を超えた親子の愛情と絆。一つの「家族」の在り方がこの本の中にあります。

タイトル:「川の光」

棚: A25~A30
請求記号: F マツ

著者: 松浦 寿輝 出版社: 中央公論新社 (2007年7月)

この物語の主人公は人間ではありません。ネズミです。それもネズミの一家。お父さんとタータとチッチ兄弟の、壮大な大冒険のお話です。人間による開発で川辺の住処を追われた親子は、新天地を求めて旅立ちます。彼らから見た人間の世界はとても大きくて、危険がいっぱい。障害を乗り越え、心優しい動物たちに助けられながら、親子の冒険は続きます。種類も大きさも違う仲間たちとの絆に現代人が忘れかけているものを思い出させてくれます。はたして親子は無事、新天地へたどり着くことができるのでしょうか?

「川の光を求めて!」作中に登場するこの言葉は、親子の希望の言葉です。

館長随想 (二十四)



四月から新年度が始まりました。図書館での仕事では、お正月よりも新年度の方が、改まった気持ちになります。私は、昨年の「ハトダヨ」四月号に、図書館には新しい職員の加入がなく、三月までと同じメンバーでお迎えしますと書きましたが、今年も同じく新加入はありません。メンバーは同じですが、中央図書館と地区図書室間の異動をしました。特に地区図書室では、馴染んでいた職員が異動ということもあるでしょうが、新しく赴任する職員も、同じようにお付き合いいただければありがたいです。

四月からは図書館の雑誌購入を支援してくれているスポンサー企業に、「函館山ロープウェイ株式会社」が新たに加わり、「旅行読売」など三誌の雑誌の購入をしていただくことになりました。「公文教育研究会」はこれまでより一誌多い六誌を提供いただきます。この他にも支援いただいている企業には御礼申し上げます。

図書館の書架という限られた利用で、宣伝効果が非常に大きいものではありませんが、図書館利用に間違いなく寄与していただいています。一年を通せばかなり多くの人に見ていただいていますし、提供雑誌を手にとった方には、広告は必ず目にします。まだ新年度が始まったばかりですが、来年度は協力してみようかなと思われたいら、館長室をノックしてください。よろしく願います。

デジタル資料館 紹介



(弘前公園) 下乗橋の桜花 (pc010018-0005)

現在も桜の撮影スポットとして賑わう弘前公園下乗橋。北海道新幹線を利用して、訪れる予定のある方もいらっしゃるでしょう。デジタル資料館では、道外地域の絵葉書も多数公開しています。

ワン! ダブル・ブックス +1

今月は成年にちなみ、図書館で読むことができる犬が登場する本をご紹介します!
飼っている方もそうでない方もぜひ手に取ってその魅力を堪能してください!!

犬と私の10の約束 (川口 晴/著 文藝春秋 2007.07)

●函館が舞台の小説です。映画化もされました。

犬と妖精のお話 (カレル・チャペック/原作 ゴマブックス 2007.6)

●犬が地面に穴を掘るのはなんで?ヴォジーシェクの冒険のお話です。

ワンダフルストーリー (伊坂 幸犬郎、犬崎 梢、他/著 PHP 研究所 2014.10)

●著者名に「イヌ」が必ず入っているのがポイントです。

作家の犬 (コロナ・ブックス編集部/編 平凡社 2007.06)

●川端康成、志賀直哉。文豪たちが飼い犬に向ける優しいまなざし・・・

チロと星空 (藤井 旭/著 ポプラ社 2003.09)

●「星になったチロ」の主人公、チロの日常を描いています。写真もたくさん!

ターシャとコーギ (ターシャ・テューダー/著 メディアファクトリー 2008.02) ●絵本作家ターシャが愛したコーギ犬たちの物語。

世界で一番美しい犬の図鑑 (タムシン・ピッケラル/著 エクスナレッジ 2016.03) ●写真が美しく、犬の目がとても印象的です。

ロダンのココロいろはのきもちクリニック (内田 かずひろ/著 日本文芸社 2016.05) ●不器用なココロに「哲学する犬」ロダンがそっと寄り添います。

白い犬 (梅 佳代/著 新潮社 2016.12)

●白い犬の息遣いまで聞こえてきそうな写真集です。

黄色い犬 (田中 渉/作 小学館 2004.10)

●黄色い犬のぬいぐるみが持ち主の子との思い出を語ります。

犬ぼんぼん (trikotri/著 誠文堂新光社 2017.03)

●毛糸を巻いて作る「ポンポン」で、可愛いワンちゃんが作れます。

CD ♪ 愛犬の為にストレス解消音楽 (坂口 博樹/[ほか]演奏 日本クラウン 2002.02) ●愛犬と飼い主のための癒しの音楽を6曲収録しています。